６年産　寒締め　ちぢみほうれん草栽培基準

目標粗原反収	1,620kg
目標製品反収	1,620kg
播種時期	9月上旬
収穫時期	11月下旬 ～ 12月下旬

	品種	4月～8月	9月			10月			11月			12月		
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
基本作業	冬霧7 じっくり朝霧	防虫ネット準備	播種						寒締め					
			防除								収穫			

【 土壌診断値に基づいた施肥基準　10a当り（坪当り）】

有効態燐酸値（土壌100g）	肥料名	施用量(kg)		要素量(kg/10a)		
		kg/10a	(kg/坪)	N	P	K
20～30mg	NS604	60.0	(0.20)	9.6	6.0	8.4
30mg以上	NS248	45.0	(0.15)	9.0	1.8	3.6
－	硫安	43.0	(0.14)	9.0	－	－

【 EC値に基づいた窒素施肥量（10a当り）】

EC値	0.00~0.25	0.25~0.50	0.50~0.75	0.75~1.00	1.00以上
窒素量	0.0	3.5	7.0	10.5	14.0
施用量	9.0	5.5	2.0	0.0	0.0

【 栽植密度（坪当り）】

	畦間	株間	株数	シーダーテープ
①	25cm	8cm	166	13.3m
②	25cm	10cm	266	13.3m

※②は2粒播種、間引きが必要（間引き後133/株数）

【 農薬使用基準 】

項目	適用病害虫名	農薬名	使用濃度（倍）	10a当り薬量（水100ℓ）	適正使用基準 使用時期	適正使用基準 回数	RACコード
殺菌剤	立枯病（ピシウム菌）	タチガレン液剤	500	200ml	は種時（散布水量：3L/平方m）	土壌灌注1	F：32
	立枯病（リゾクトニア菌）	バシタック水和剤75	750	133g	は種時～子葉展開時（散布水量：3L/平方m）	土壌灌注1	F：7
	べと病	ピシロックフロアブル	1,000	100ml	前日	2	F：U17
		ランマンフロアブル	2,000	50ml	3日	3	F：21
殺虫剤	ネキリムシ類・ホウレンソウケナガコナダニ	フォース粒剤	－	全面9kg	は種前	1	I：3A
	タネバエ	ダイアジノン粒剤5	－	作条6kg	は種時	1	I：1B
	アブラムシ類	アドマイヤー顆粒水和剤	10,000	10g	前日	2	I：4A
	ハスモンヨトウ・ホウレンソウケナガコナダニ	アファーム乳剤	2,000	50ml	3日	2	I：6
	ハスモンヨトウ・マメハモグリバエ ホウレンソウケナガコナダニ アシグロハモグリバエ	カスケード乳剤	4,000	25ml	3日	3	I：15
	アザミウマ類・アシグロハモグリバエ	スピノエース顆粒水和剤	5,000	20g	前日	2	I：5
	ホウレンソウケナガコナダニ	ディアナSC	2,500	40ml	前日	2	I：5
	ミナミキイロアザミウマ・アシグロハモグリバエ	パダンSG水溶剤	1,500	66g	7日	2	I：14
	アザミウマ類・アシグロハモグリバエ アブラムシ類・ホウレンソウケナガコナダニ	リーフガード顆粒水和剤	1,500	66g	7日	2	I：14

※パダンSG水溶剤の高温時の使用は、薬害が発生しやすいので注意する。

【 ローテーション防除 】

生育時期	防除薬剤	
子葉期	パダンSG水溶剤（成虫）	アファーム乳剤（成虫/幼虫）
1～2葉期	ディアナSC（成虫/幼虫）	カスケード乳剤（成虫/幼虫）
2～3葉期	アファーム乳剤（成虫/幼虫）	スピノエース顆粒水和剤（成虫/幼虫）
3～4葉期	パダンSG水溶剤（成虫）	カスケード乳剤（成虫/幼虫）
収獲直前	ディアナSC（成虫/幼虫）	スピノエース顆粒水和剤（成虫/幼虫）

※生育時期で薬剤を選択ください。

【 土づくりと防除および栽培技術 】

1. 堆肥（上限3t/10a）、有機質資材は前年秋に施用する。
2. 最初の作付け前に土壌診断を行い、有効態燐酸20～30mg/100g、pH6.0～6.5を目標に改良する。
3. 作付け前にECを必ず測定して施肥量を決定する。
4. 生育中の水分を蓄えるため、は種前に十分な灌水を行う。
5. 紫外線カットフィルムの使用により病虫害の発生を軽減する。
6. 害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する。
7. 上記5、6により農薬の使用を削減する。
8. 寒締め栽培は低温管理（平均5℃の低温管理で、糖度を上昇させる）を行い、糖度が8度になったら収穫する。